

市内中小企業が「チャイナ・プラスワン」候補を視察

ベトナム産業調査ミッションの報告

西条市とサイクスは、去る10月5日から11日の間、市内中小企業6社とともに、ベトナム産業調査ミッションを実施しました。これは、西条市が採択を受けた日本貿易振興機構の支援事業「地域間産業交流支援事業」により実施したものであり、市内中小企業のベトナム国での拠点開設、現地企業とのビジネスマッチング、販路開拓等の可能性について調査することを目的とするものです。

調査対象地域は、これまで実施してきた国内研究会での検討結果や、現地の調査機関に依頼し実施した基礎調査結果等を踏まえ、ベトナム北部地域のハノイ市、タイグエン省、中部地域のダナン市、南部地域のホーチミン市、ビンズン省としました。

■ミッションの概要

本ミッションでは、人民委員会や鉄鋼・機械関連の業界団体、商工会議所、技能実習生派遣機関を訪問し、経済情勢や現地企業の業績および課題、また近年、市内においても受け入れが進んでいるベトナム人技能実習生の現状等についてのヒアリング調査を実施するとともに、市内中小企業がベトナム国への進出や販路開拓を進める際の支援と協力を依頼しました。

さらに、製造、機械加工、精密部品加工等を手掛ける現地および日系企業を訪問し、製造現場の視察等により、操業に係る現状や管理体制・技術レベル等を調査しました。そして、各地の工業団地や



▲ハノイ市企業の製造現場を見学

ホーチミン市で開催されたベトナム国最大級の国際見本市「メタレックス・ベトナム2014」の視察も併せて実施するなど、多くの有益な情報を得られる充実したミッションとなりました。

■ベトナム国における現状と課題、今後の展望

ベトナム国は「チャイナ・プラスワン」として日本企業からの注目度が高く、市場の潜在性や今後の成長性に対する期待から、進出する企業は増加傾向にあります。

また、発電所や高速道路、地下鉄等の各種インフラ開発が進展し、工業団地や安価なレンタル工場も整備されるなど、中小企業にとって良好な事業環境が整いつつあります。

しかしながら、訪問先によると「成長率は過去の7%程度から、現在は5%程度へと鈍化傾向にあり、多額の不良債権を抱えるなど、マクロ経済の不安定感が否めない」と

ことや「鉄鋼材料や部品の現地調達率は依然として低く、進出時のサプライチェーン構築には課題がある」といった指摘があり「有望な市場、生産



▲ダナン市人民委員会外務局への表敬訪問

拠点としての過度な期待は禁物」であるとのことでした。

一方では「ベトナム国は、産業の高度化を支える製造・切削加工・溶接・熱処理などの裾野産業の育成が重要課題であり、それらの技術に強みを持つ西条市企業とのビジネスや技術指導等は大いに歓迎する」「多品種少量生産への対応や工場の自動化など、現地企業のニーズは変わってきており、技術レベルも高まりつつあることから、日本企業のビジネス展開の形態において、その選択肢は増えるだろう」といった前向きな見解も示されました。

■ミッション参加を海外展開の足掛かりに

参加企業各社は、今回のミッション参加を通じ、それぞ



▲ホーチミン市で建設中のレンタル工場を視察

れの経営方針や事業戦略等のもと、現地でのビジネスや進出等についての感触をつかむことができたようであるが、再度、ベトナム国を訪問し、現地企業との商談や進出の可能性を引き続き検討してみたい」との意欲的な動きが見られるなど、今回のミッションを契機としたベトナム国との産業交流の実現が期待されます。

西条市とサイクスでは、日本貿易振興機構をはじめとした国内関係機関はもとより、ベトナム現地の政府機関や団体等との連携・協力体制の構築を図り、海外ビジネスに積極的にチャレンジする市内中小企業に対する支援を強化してまいります。皆さまもぜひご利用ください。